

分野計画や24年度予算編成の反省点を踏まえた新たな取り組みについて（検討）
～平成25年度予算編成に向けて～

平成24年8月
本部事務局

通年予算として3年度目を迎える25年度予算編成に向け、分野計画や24年度予算編成の反省も踏まえ、新たな事業展開の検討をスタートさせる。

〔24年度予算編成の結果〕

- ・各分野事務局での事業拡大案の提案に対してはやや自己抑制的な傾向。
- ・結果として④事業費予算は対③当初比+5.5%(+17百万円)に止まった。
(傾向)
 - 各府県の類似事業についての広域化等を企図しても、
全府県共通の取組ではないケース、連合以外の団体が含まれるケース。
→分担金ルールへのこだわりもあり二の足を踏む傾向
 - 連合予算で増額要求すれば、各府県自体の予算に同額の減圧力がかかる。
→分野計画の展開が抑制気味となる傾向
 - 横断的なテーマへの検討は十分とは言えず。

〔25年度予算編成に向けた検討の視点〕

- 各府県事業のまま(連合予算0)でも「協調事業」として広域再編すべき事業
＜例＞文化振興事業の取り組み
 - 連合事業として広域再編すべき事業(各府県市の部分参加も可)
＜例＞KANSAIブランド、総合防災訓練
 - 複数分野が連携する取り組み
＜例＞医療・産業ツーリズムの誘致
 - その他連合議会・協議会での指摘事項など
＜例＞広域的な農商工連携による6次産業化の推進
- ※ 設立時からの宿題である順次拡大する事務の取り組み検討は、広域計画等の見直し作業と合わせて検討

○スケジュール

